

川路聖謨と勘定所の極めて貴重な未刊史料。

# 勘定奉行・川路聖謨関係史料 全6巻

【監修】大口勇次郎 【解説】吉川紗里矢 ■揃定価：本体120,000円＋税（分売不可）A5判上製 ISBN978-4-8433-4625-9 C3321

全巻の構成

2015年11月刊行予定

- 第1巻 ● [画入] 川路聖謨一代明細書／江州道中記事録／江州庄村地境出入
- 第2巻 ● 御勘定所要録 1
- 第3巻 ● 御勘定所要録 2
- 第4巻 ● 御勘定所要録 3／御勘定所勤方並御代官諸入用拝借等
- 第5巻 ● 御勘定所条例 1
- 第6巻 ● 御勘定所条例 2／贈従四位川路聖謨遺書目録

二〇一五年十一月全巻同時発売

【監修】大口勇次郎 【解説】吉川紗里矢 全六巻

## 勘定奉行・川路聖謨関係史料

## 江戸幕府勘定所未刊史料集

佐渡奉行や奈良奉行、勘定奉行を歴任した川路聖謨の未刊史料と、江戸幕府の財政と地方支配を担った勘定所の未刊基礎史料を併せて収録。

関連企画のご案内 \*表示価格に消費税が加算されます。パンフレット謹呈します。

藤井讓治／吉岡眞之 監修・解説

### 天皇皇族実録 全135巻

●揃定価：本体2,497,500円＋税 A5判上製／クロス装／函入  
神武天皇より第121代孝明天皇に至る歴代天皇並びに光厳・光明・崇光・後光厳・後円融の北朝五天皇と、皇后以下後宮、皇親、皇親妃、(但し、伏見宮・桂宮・有栖川宮・閑院宮の四親王家を除く)に関する事蹟を、編年体にて収録した戦前期最高水準の実録。

岩壁義光 監修・解説

### 近世有栖川宮歴代行実集成 全7巻

●揃定価：本体155,000円＋税 A5判上製／クロス装／函入  
歌道と書道を家学とし、宮中で重きをなした宮家の近世における全体像を探ることが出来る唯一の史料。①有栖川宮総記／解説 ②好仁親王行実／良仁親王行実／幸仁親王行実 ③正仁親王行実 ④職仁親王行実 ⑤織仁親王行実 ⑥韶仁親王行実 ⑦職仁親王行実

吉岡眞之／藤井讓治／岩壁義光 監修

### 四親王家実録 第I期

### 伏見宮実録 全19巻

●揃定価：本体475,000円＋税 B5判上製／クロス装／函入  
「四親王家」各実録をはじめて公開。『天皇皇族実録』に記述のない部分を埋める唯一の資料。近世に書かれた未公開の日記を大量に含んでおり、近世公家社会研究にも大変有意義な文献史料。

大口勇次郎 監修 針谷武志 解説

### 向山誠齋雑記 全47巻

●揃定価：本体1,081,000円＋税 A5判上製／クロス装／函入  
幕臣の向山誠齋が職務上接し、書き写した幕府の行政文書・記録類を影印復刻。  
【嘉永・安政篇】全21巻……………揃定価：本体483,000円＋税  
【天保・弘化篇】全26巻……………揃定価：本体598,000円＋税

松尾美恵子 監修

学習院大学図書館所蔵

### 丹鶴城旧蔵幕府史料 全35巻

●揃定価：本体845,000円＋税 B5判上製  
江戸幕府の政治を具体的に伝える、水野忠央(みずの ただなか)収集の貴重な史料群。水野忠央が書き写させた「老中留書類」を、「丹鶴叢書」も含めて原本の配列順そのままに悉皆刊行。

青木美智男 編

### 文政・天保期の史料と研究

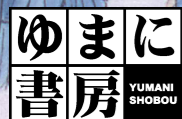
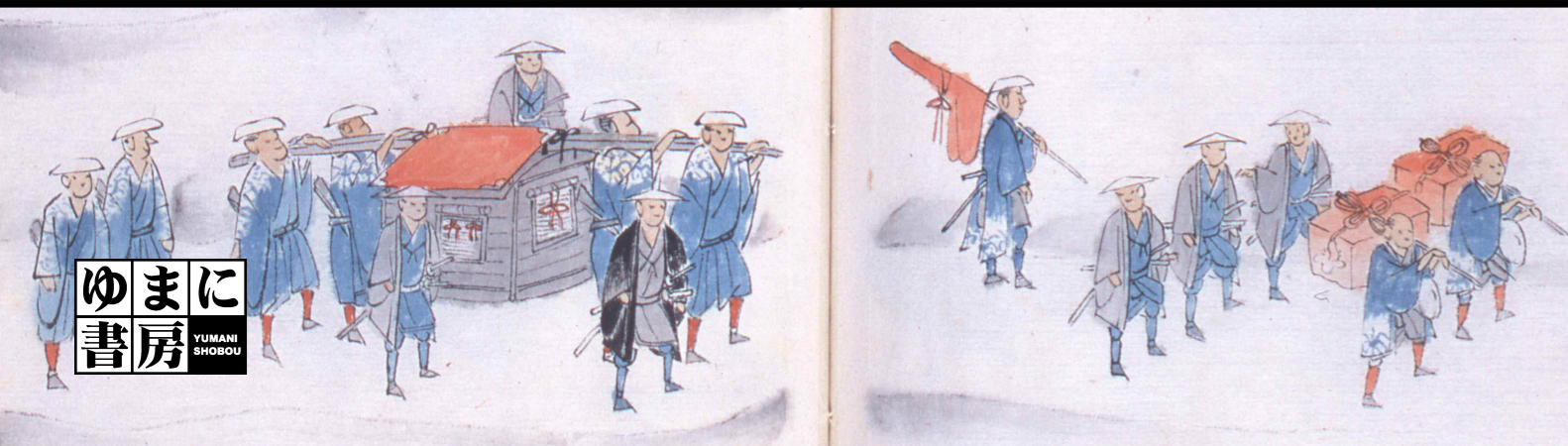
●定価：本体8,000円＋税 A5判上製／クロス装／函入  
文政・天保期未刊の第一級史料、藤田東湖「浪華騷擾紀事」(大阪城天守閣蔵)及び文政・天保期の江戸の一小商人の生活記録「自分覚之事」(神奈川県立公文書館蔵)を初めて翻刻して解説を付し、あわせて新視点による論考3点を収録する。



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03(5296)0491  
FAX.03(5296)0493  
http://www.yumani.co.jp/  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

● 特におすすめしたい方 日本近世史、幕政史、経済史、地域史、村落史、法制史の研究者・研究室、大学図書館ほか。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	勘定奉行・川路聖謨関係史料 全6巻 ●揃定価：本体120,000円＋税(分売不可) ISBN978-4-8433-4625-9 C3321		取扱店
	お名前 ご住所 TEL ( )		



# 刊行にあたって

## 大口勇次郎

川路聖謨（かわじ）としあきら、一八〇一〜一六八、享和元年（慶應四年）は、無役の小普請組から身を起こし、勘定方の出役、支配勘定の仕事ぶりを認められ、勘定吟味役に抜擢され、佐渡奉行、奈良奉行、大坂町奉行などを歴任し、嘉永五年には勘定奉行に昇進し海防掛を兼任するなど、幕末の地方行政や外交交渉に功績のあった幕臣である。安政の大獄で失脚、免職・隠居を命ぜられ、その後中風を発症し病床にあったが、江戸開城を前にして割腹のうえ、短銃で自尽したという。

在職中の日記は、刊行されたものも多いので、よく知られているが、ここでは勘定方に勤務中に筆写した『御勘定所要録』など、勘定方が所轄する仕事を遂行するのに必要な先例として多数の触書や行政文書を収めた書物を収録した。

勘定所に保管されていた文書類は散逸し、その全貌を知ることが出来ないが、その内一部分は、これまで勘定方に勤務した人物によって筆写されて今日に伝えられたものがある。

一つは、勘定方で、書類の整理を命ぜられていた大田南畝が、勤務の合間に興味のある古文書を筆写した古文書集で、書物蔵の近くにある竹橋御門の名に因んで「竹橋余筆」と題したものである。もう一つは、幕府の奥右筆や勘定方に勤めた向山誠斎が、勘定方の収蔵庫にある史料を筆写した「向山誠斎雑記」である。南畝や誠斎は、勘定所の収蔵書類を閲覧できる立場を利用して、自らの関心に従って筆写したのであるが、聖謨の場合は、勘定吟味役や勘定奉行として、勘定方の職務を執行する立場から、先例の細部を知るために、必要があつて役所に備付けの書物を筆写して、個人用のものとしたものであろう。「誠斎雑記」にも、延享二年の年次入りの御勘定所勤方目録という類書が見られるが、聖謨が残したものは幕末期に現用されていた書物と思われる。

この他に、聖謨が、近江国の村境争いの裁定のために、現地に赴いた時の「道中記」と「地境出入」一件の史料を収めた。また、聖謨が初めて役所に出仕したときから、晩年に勘定奉行兼海防掛として長崎に向かうときまでの、出勤の姿や公務出張の際の行列の姿を描いた「一代明細書」を収めているが、これは江戸時代の武士の身分を視覚的に表わした記録として貴重であろう。

史料の解題は、川路聖謨の勘定方の仕事に造詣があり、本書の収載史料の選択に携わつてこられた吉川紗里矢氏が担当している。

## 収録史料

### ◆『川路聖謨文書』未収録史料

#### ●第一巻

一、「[画入]川路聖謨一代明細書」

（全一冊、カラ、宮内庁図書館蔵）

川路聖謨の経歴を絵入りで示した資料。聖謨は勘定所の諸役、評定所留役、勘定吟味役、佐渡奉行、奈良奉行、大坂町奉行、勘定奉行へと立身出世していったカリスマであり、その奈良奉行までの様子が鮮やかな行列図で見られる。また、佐渡奉行として日本海を渡る船の行列図は貴重かつ壮麗である。

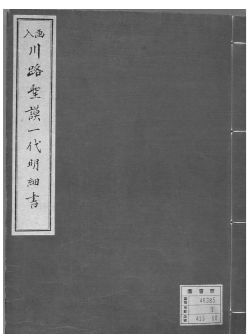
二、「江州道中記事録」

（全二冊、宮内庁図書館蔵）

三、「江州庄村地境出入」

（全二冊、国立国会図書館蔵）

「江州道中記事録」は、川路聖謨が江戸から近江へと出張した文政八年（一八二五）正月二十八日から八月十六日まで日記である。この道中日記は川路史料の中でも最も古く、既刊の「川路聖謨文書」にも未収録であった。彦根藩・宮津藩の村境争論を契機にこの出張は行われ、二十五歳の若き川路聖謨が見事解決した史料である。幕府役人からみた幕府・藩・地域との折衝を垣間見られる史料でもある。「江州庄村地境出入」はその時に用いられた書状などを収録した史料である。



### ◆江戸幕府財政を担った

#### 勘定所の関係史料

#### ●第二巻〜第四巻

四、「御勘定所要録」

（全一〇冊、東京大学史料編纂所蔵）

五、「御勘定所勤方並御代官諸人用拝借等」

（全一冊、宮内庁図書館蔵）

#### ●第五巻・第六巻

六、「御勘定所条例」

（全五冊、東京都公文書館蔵）

七、「贈従四位川路聖謨遺書目録」

（全一冊、宮内庁蔵）

四から六の三点は勘定所の書付・触書・達などの先例を収録した史料。その内容は検地・年貢・普請・金蔵・道中方・寺社修復金・鷹場など多岐に渡る。川路聖謨は勘定所の諸役を歴任した人物であり、その職務を全うする上で役職情報を書き留める必要性があつた。川路自筆本は現在、東京大学史料編纂所に「御勘定所要録」十冊、宮内庁図書館蔵に「御勘定所勤方並御代官諸人用拝借等」一冊が所蔵されている。しかし、今回の出版・調査の過程で、もともとは川路家上記の両書を「御勘定所要録」十一冊として所有していたことが明らかになった。本書は双方合わせての出版となり、川路家が旧蔵していた状態の完本十一冊を収録する。「御勘定所条例」は内容が川路自筆の「御勘定所要録」に類似した史料であり、その比較資料として収録した。また、「贈従四位川路聖謨遺書目録」は、川路家から宮内省図書館へ川路聖謨遺書が移管された際に作成された目録である。「昭和五年度臨時部 用度費 川路聖謨書購入費」（宮内公文書館蔵）や川路柳虹の『黒船記』によれば、昭和五年、柳虹（聖謨の子孫）が聖謨の研究向上・再評価のために提供した。移管当時の聖謨旧蔵史料の全体像が分かる蔵書目録。



文春院様中代文化九壬申年四月日不知事養父三左衛門孫小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也  
 三左衛門孫小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也  
 三月廿七日願之通由養子被 作付後有牧野備前守孫作付  
 後由右近將監探中組同十月二年三月廿六日由養父  
 三左衛門孫小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也  
 三左衛門孫小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也  
 小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也  
 四月支配勘定出役と 作付中由男子言付存儀の條也  
 於願之通青山下野中孫小普清組石川右近將監探中組之儀由男子言付存儀の條也

### ◆……………本書の特色……………◆

#### 江戸幕府財政を担った

##### 勘定所の関係資料

江戸幕府勘定所は、江戸幕府の財政を担い、幕政機構のなかでも重要な役所である。しかし、幕府史料は明治維新の混乱や、関東大震災でほとんどが灰燼に帰してしまった。近年、大野瑞男氏により、大老や老中の家に残された幕府財政史料を中心に「江戸幕府財政史料集成」（上下巻）が編まれた事は画期的であった。今回の史料は、検地・年貢といった幕府の地方支配の根幹に関わる基礎史料を集めたものである。

#### 勘定所役人の政治常識を知る

今回の史料は、幕末、勘定奉行を勤めた川路聖謨の自筆写本であり、勘定奉行の所轄事務を検地、取箇、道中などに分けた法令を収めた、「御勘定所要録」（東京大学史料編纂所蔵）を中心とし、その欠文を「御勘定所条例」（東京都公文書館蔵）で補った。これらの史料から、勘定所役人の政治常識を伺うことが可能である。

#### 川路聖謨の立身出世模様を

##### カラーで収録

上記の史料を残した川路聖謨の画入一代記も収録する。勘定吟味役、佐渡奉行、小普請奉行、大坂町奉行、勘定奉行などの要職を歴任し、出世していく川路の人生が絵巻物のように観られる貴重資料である。近世の人々が見た幕僚イメージを目の当たりにすることができる。